

人間性心理学

人間性心理学の背景と成り立ち

心理学は、ヴントがライプチヒ大学に世界で最初の心理学実験室を設立した19世紀後半に、自然科学の一領域として位置づいたといわれています。ヴントの心理学は、人の意識がさまざまな構成要素をもって成り立っていると考えるため構成心理学と呼ばれます。この構成心理学に対する批判から、心理学の研究対象を客観的に観察し得る行動に焦点化した行動主義的な心理学や、心を構成要素に区分せず全体性を重視したゲシュタルト心理学など、さまざまな心理学が展開していきました。意識以上に無意識的過程を重視した精神分析もその一つといえます（無藤，2004）。人間性心理学は主に北アメリカで1960年代に発展した心理学ですが、提唱者であるマズローは、当時主流であった行動主義を第一勢力、精神分析を第二勢力とし、それに対抗する第三勢力として人間性心理学を位置づけました（サトウ，2003）。人間性心理学は、人の心のありようをその人の主観的体験のままに捉えようとする現象学的観点を重視し、さらに実存（存在そのもの）が本質に先立つと考える実存主義の哲学的観点をくんでいます。

ゲシュタルト心理学者であり脳病理解学者のゴールドシュタインは、人間がいかにか不安を克服していくかという点で、実現化に向かう衝動（自己実現の衝動）を提唱し、それを支えるのが個性と意志決定であるとしました（ゴールドシュタイン，1934）。マズローはその視点を重視し自らの理論に取り入れました。それが「欲求階層説」であり、図1に示すように、人は生理的欲求といった基本的な欲求が満たされると、より高

キーワード

- 第三勢力
- 現象学的観点
- 実存主義的観点
- 自己実現
- クライエント中心療法

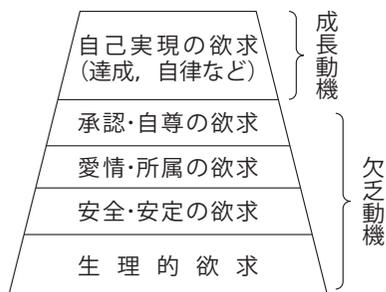


図1 欲求階層説（マズロー，1954，1962）

次の欲求に至ることを提唱しています。マズローは精神分析の欲動論を批判的にみて、欲求不満の回復に焦点を当てた欠乏動機とは異なる、自己実現に向かう成長への欲求を成長動機として重視しました(マズロー, 1962)。

人間性心理学の特徴

人間性心理学に特徴的な観点は、以下の4つにまとめられます(巖谷, 1993)。第一に、人間には主体性があり、意志決定する能力があるとする「自己決定の意思の尊重」、第二に、人間は構成主義的に要素に分けられるのではなく、有機的存在として自律的に統合されているという「有機的個体としての全体性の尊重」、第三に人の実存的本質は自らを意味づけ、価値づけようとする自己実現の傾向にあり、人の成長や適応はその方向性に則っていると考える「実存的自己実現傾向の重視」、第四に、人間の存在は人との関係性の中で捉えられ、意味づけられるもので、他者と関係をもつことによって自己に気付くことができるという「関係の中での人間存在の重視」という観点です。

このような新しい心の捉え方を心理療法に取り入れ、それまで患者と呼ばれていた者を「クライアント」とより中立的に名づけ、「クライアント中心療法」を構築したのがロジャーズです。ロジャーズは全体的な人格を、自己認知の総体としての「自己の構造」と個人に体験されるすべてのものを表す「体験」から捉え、体験が否認され自己構造の中に組み込まれない時(自己不一致)に、人は心理的不適応を生じると考えました。そしてカウンセリングの中で、クライアントが、より体験に開かれたカウンセラーによる、無条件のポジティブな関心や共感的理解によって、自らの体験を尊重される中で自己一致していくこと、体験を十分に認め受け入れることができるようになると、自己の構造が再体制化され自己実現に向かうよう人格が変容していくと考えました(ロジャーズ, 1951)。

まとめ

- 精神分析、行動主義への批判から生まれた第三勢力として位置づけられる。
- 人の心を主観的体験のままに、現象学的に、そして実存的に捉えようとした。
- 人の心をもつ成長促進的な傾向を重視した。

<引用文献>

- Goldstein, K. (1934) *Der aufbau des organismus*, Martinus Nijhoff, Haag. (村上仁・黒丸正四郎 (訳), 1957, 生体の機能, みすず書房.)
- 裊岩秀章 (1993) 人間性心理学的基礎, 小谷英文 (編著) (1993) *ガイダンスとカウンセリング* (pp. 35-43), 北樹出版.
- Maslow, H. (1954) *Motivation and Personality* (小口忠彦 (訳), 1987, 人間性の心理学, 産能大学出版部) .
- Maslow, H. (1962) *Toward a psychology of being*, D. Van Nostrand. (上田吉一 (訳), 1964, 完全なる人間 - 魂の目指すもの -, 誠信書房, 1988第2版).
- 無藤隆 (2004) 心理学の源流, 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 (2004) *心理学* (pp. 30-31), 有斐閣.
- Rogers, C. (1951) *Client-Centered Therapy: Its Current Practice Implications, and Theory*, Houghton Mifflin Company. (保坂亨・諸富祥彦・末武康弘 (共訳), 2005, *ロジャーズ主要著作集2クライアント中心療法*, 岩崎学術出版.)
- サトウタツヤ (2003) 20世紀の三大潮流とその批判, サトウタツヤ・高砂美樹 (2003) *流れを読む心理学史 - 世界と日本の心理学 -* (pp. 44-74), 有斐閣アルマ.